

番号	項目	委員質疑・意見内容
<b>総論</b>		
1	総論	○ 健幸という言葉は一般的な言葉か。
2		○ 幸せに生きようと考えた場合、自分のやりたいことができる世の中である必要がある。金銭的余裕があり、健康で、自分のやりたいことがあるといった様々なことがトータルで満たされることにより、健康であり、幸せであるのではないか。 ○ 幅広い議論を行い、10年、50年、200年後を見通した計画の策定を行う必要があるのではないか。
3		○ 計画策定後、中間評価等は行うのか。計画策定が目的となることがないよう、計画に盛り込む施策については、どこが中心となってやっていくかということも検討し、踏まえる形で計画に位置づけを行う必要があるのではないか。
4		○ 子ども、親子、高齢者それぞれの立場にあわせた、きめ細やかな目標設定等を行うこと等により、幅広い取組が可能となるような計画とする必要があるのではないか。
5		○ 行政が「連携」して取り組むとの記載があるが、これは、大学、企業、地域の団体との連携といった観点も含まれるのか。
6		○ アンケートをされるのであれば、1日10分でも20分でも頑張った人とそうでない人の差を出すと、幸せも健康も人それぞれ感じ方が違うし、できる環境できない環境があるので、できないことよりできることに早くとりかかっていたきたい。
7	データ分析	○ 家から外に出る外出率、交通計画の分野における1人が1日に何トリップするかという指標について、草津市の状況(高齢者の活動状況、近年の傾向、国、県との比較等)の分析を進め、資料集の中に加えるべき。
8		○ 有所見率だけではなく、草津市が他の市町村と比べてどこが悪いのか問題があるのかを把握することが重要。引き続き年齢等も考慮して、分析を進めていただきたい。
9		○ HbA1cや収縮時血糖、腹囲に関して、基準が厳しすぎるのではないか。それにより、有所見者が多くなっているのではないか。
<b>まちの健幸づくりにおける検討内容</b>		
10	公園の整備	○ 草津川跡地が整備される中で、公園等もできるかと思うが、駅前からは少し距離があり、駅前にも公園の整備を検討して欲しい。
11	中心市街地の活性化	○ いかに経済を発展させ、地域の賑わいをつくっていくのか、特に中心市街地の活性化をどう図るかという観点で、商工会議所としても取組が進められるのではないか。

番号	項目	委員質疑・意見内容
ひとの健幸づくりにおける検討内容		
12	運動や身体活動への方より	○ 健康づくりには様々な施策が必要であると考えますが、検討内容等をみると、運動や身体活動に偏っているように感じるが、そこに力を入れていきたいという趣旨か。
13	メンタルヘルスの扱い	○ 体が元気で健康ということも重要であるが、心を病むということも体全体にとって影響がある。心の問題はどのように扱うつもりなのか。
14	健康な食に関する取組	○ 運動と食事はセットにして考える必要。市では食に関する情報発信をこれまでも行ってきていると承知しているので、運動も絡める形で引き続き情報発信をして欲しい。
15		○ 草津市に行く健康な食べ物が食べられるといった環境整備を行うため、外食や市販のお弁当の栄養バランスの検討や、カロリー表示の推進といった取組を進めてはどうか。
16	たばこに関する取組	○ 草津市において、飲食店の禁煙や分煙化を進め、たばこの煙を吸わせない環境整備を進めてはどうか。
17	働く世代へのアプローチ	○ 保育園で保育の仕事をしているが、大人の歩く機会が増えていけば、子どもも歩くようになっていくのではないか。
18		○ 働いていると、平日の日中はイベントへの参加が難しい等時間の制約がある。働き盛りの世代は、いまは健康でも予備群であるという方もいるので、こういった世代も参加しやすいものを考える必要があるのではないか。
19	介護予防の取組	○ 高齢者は少なからず病気を抱えているが、活動に参加している人は総じて元気である。健診の結果等の数字で図ることができない健康というものがある。
20		○ 介護サービスを使うことにより、介護サービスを利用してる人を地域から引き離してしまっている現状があるのではないかと思料しており、特に要介護者になったら、地域の参加者でなくなってしまう現状があるものと思料。
		○ 業界では、介護予防という言葉は、ポジティブな言葉として考えていたが、地域の方の中には、介護予防という言葉を聞いただけで、嫌悪感を持つ人もいます。
21		○ 介護サービスを利用したくないと考えていても、利用を始めると、介護認定を手放したくないという人が多いという現状もある。
	○ 老人クラブでは、未加入者も含めた歌の会や、老人クラブという言葉が嫌いな人でも親しみやすい「きりりクラブ」という名称で65歳以上を対象に行事を実施。	
22	○ その中で、くさつ健・交クラブが進めているノルディックウォークの指導を受けた、素晴らしさを実感している。	
	○ 地域に運動プログラムの発信をしているところ。具体的には、元気な高齢者を指導者として養成し、その指導者が他の高齢者を健康にしていくようなシステムづくりを実施。	
		○ 今回の計画においても、草津市にモデルとなる地域を設定し、他の地域に広げていくような取組が盛り込めればと思料

番号	項目	委員質疑・意見内容
23	子どもの健康づくり	○ スポーツ少年団に関わっているが、子どもには運動が好きになって欲しいという願いをもっている。親子で、三世代で運動あそびができるようになれば良いと思う。
24	家からでてこられない人・健康に関心がない人へのアプローチ	○ 健康に関心がない人や家から出てこられない人へのアプローチも検討すべき。健康な人だけがどんどん健康になり、出てこられない人はそのままでは、極端な状況になっていくのではないか。
25		○ 運動するために出てきましょうという呼びかけだけでは、興味のない人には参加してもらえないので、目的を違うところにおくことにより、健康に興味のない人に対するアプローチを検討する必要があるのではないか。
26		○ 現在、家から出てこられない高齢者へのアプローチに取り組んでいるが非常に難しい。老人クラブの状況を見ると、歌や食(お茶やお弁当)に関わるイベントでは参加者が多いようであるが、運動に関するイベントとなると、体力に自信がない、店頭に不安があるという方が多く、ハードルが高くなっているものと思料。 ○ 例えば、草津市の地場野菜を使ったレシピを紹介する等、こういったイベントであれば、少しでも顔を出してもらえるか検討する必要があるのではないか。
27	その他(健康推進委員の活動)	○ 健康推進員は、地域に密着した地道な活動を行っており、滋賀県では活動の5本柱、栄養・運動・休養・健診・生きがいというものがある。 (○宣言には、健診という言葉も入れていただきたい。)

#### しごとの健幸づくりに関する検討内容

28	近畿一の施設野菜団地の売り込み	○ 草津市は、近畿一の施設野菜団地を有しており、十分に草津市の食を支えられる、量も質も100%支えられるものを備えているところ。 ○ 草津市はいい環境にあるので、都市宣言にも盛り込むことにより、草津市を「売り込んでいく」ことも必要ではないか。
29	積極的な広報の実施	○ 健幸都市に関する取組について、目に留まる機会が増えることにより、注目を集め、皆で、同じ方向に進んでいくことができるのではないか。 ○ 若者が興味本位で参加できるようにすることで、コミュニティが広がっていくのではないか。
30		○ 草津市では、計画策定された後の推進に向けた取組が弱い傾向にあると思料。本計画についても策定後の機運の醸成に力を入れて取り組んで欲しい。
31		○ 地産地消という話がでたときに、草津での特産品、草津ブランドがある。市民が知らないという。健康ポイントも知らない人が多いと思う。市もしっかり頑張っているということも広報できたらいいと思う。